

文部科学省 平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の
諸課題に関する調査結果について

文部科学省 平成30年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について

1 調査結果の概要

(1) 暴力行為

暴力行為件数の推移（国公立小・中・高等学校の調査結果）

（単位：件）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校		53	165	188	198
中学校		285	223	239	231
高等学校		40	35	44	39
県合計(千人当たり件数)	300(3.8)	378(4.9)	423(5.6)	471(6.3)	468(6.4)
全国合計(千人当たり件数)	54,246(4.0)	56,806(4.2)	59,444(4.4)	63,325(4.8)	72,940(5.5)

暴力行為件数は、小・中・高等学校合わせて468件で、前年度より3件減少している。校種別では、中学校での発生が最も多く231件(49.4%)、次いで小学校198件(42.3%)、高等学校39件(8.3%)となっている。

暴力行為の形態は、「生徒間暴力」341件(72.9%)、「器物損壊」82件(17.5%)、「対教師暴力」33件(7.0%)、「対人暴力」12件(2.6%)の順となっている。

(2) いじめ

いじめ認知件数の推移（国公立小・中・高等・特別支援学校の調査結果）

（単位：件）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	400	970	1,441	1,708	1,908
中学校	315	462	694	602	569
高等学校	30	71	66	86	67
特別支援学校	10	11	22	40	33
県合計(千人当たり件数)	755(9.5)	1,514(19.3)	2,223(28.9)	2,436(32.2)	2,577(34.6)
全国合計(千人当たり件数)	188,072(13.7)	225,132(16.5)	323,143(23.8)	414,378(30.9)	543,933(40.9)

いじめの認知件数は、小・中・高・特別支援学校合わせて2,577件で、前年度と比較して141件増加している。

いじめ発見のきっかけとして、「アンケート調査など学校の取組により発見した」1,089件(42.3%)が際立って多く、「本人からの訴え」522件(20.3%)や「児童生徒(本人を除く。)からの情報」96件(3.7%)を合わせると66.2%が児童生徒からのSOSや情報となっている。

なお、認知されたいじめのうち、92.2%が解消されており、早期の対応がなされたことが表れている。

「いじめの態様」(全9項目より複数回答)の全国結果は、全校種で「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」が最も多く、次いで小・中・特別支援学校では「軽くぶつ

かられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」、高等学校では「パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる」が多い。

(3) 小学校・中学校における不登校

小学校・中学校不登校児童生徒数の推移（国公立小・中学校の調査結果）（単位：人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	127	119	118	135	212
中学校	499	437	419	498	641
小中合計(千人当たり人数)	626(10.7)	556(9.7)	537(9.6)	633(11.5)	853(15.7)
全国合計(千人当たり人数)	122,897(12.1)	125,991(12.6)	133,683(13.5)	144,031(14.7)	164,528(16.9)

小学校・中学校の不登校児童生徒数は853人で、小・中学校ともに増加している。

不登校の要因の全国結果は、小・中学校では「家庭に係る状況」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「学業の不振」などとなっている。

(4) 高等学校における不登校

高等学校不登校生徒数の推移（国公立高等学校の調査結果）（単位：人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
徳島県(千人当たり人数)	166(8.3)	122(6.2)	120(6.1)	121(6.2)	137(7.2)
全国合計(千人当たり人数)	53,156(15.9)	49,563(14.9)	48,565(14.6)	49,643(15.1)	52,723(16.3)

高等学校の不登校生徒数は137人で、ここ数年増減はあるものの概ね横ばい状態が続いている。

不登校の要因の全国結果は、高等学校では「学業の不振」、「いじめを除く友人関係をめぐる問題」、「家庭に係る状況」などとなっている。

(5) 高等学校における中途退学者

高等学校中途退学者数の推移（国公立高等学校の調査結果）（単位：人）

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
徳島県(出現率%)	236(1.2)	170(0.8)	147(0.7)	147(0.7)	148(0.8)
全国合計(出現率%)	53,391(1.5)	49,263(1.4)	47,249(1.4)	46,802(1.3)	48,594(1.4)

高等学校中途退学数は148人で、ここ数年増減はあるものの概ね横ばい状態が続いている。中途退学の理由は、「進路変更」、「学校生活・学業不適応」、「問題行動等」などとなっている。

2 今後の取組

今回の調査結果をふまえ、課題を明らかにするとともに、「徳島県いじめ問題等対策審議会」及び「徳島県いじめ問題等対策連絡協議会」において幅広い意見を求め、対策を検討し、課題解決をめざす。